

食とZ世代が動かす北九州

—「Action! Fes2026」から見た“次の一歩”—



2026年2月8日(日)、北九州市のJR小倉駅 JAM広場にて「Action! Fes2026」が開催されました。

学生記者として参加した今回のイベントは、

「北九州、今、確かに動き始めている。」

そう感じさせる一日でした。

本イベントは、市や市民が踏み出した“新たな一歩”を紹介し合い、次のアクションを後押しすることを目的として開催されたものです。会場には、食やZ世代の挑戦など、まちの未来につながる取り組みが集まっていました。

挑戦は身近な場所から



料理の分野でも活躍する馬場裕之さんは、出身校である旧早鞆中学校跡地で、約2年前からこぶみかんの栽培に取り組んでいます。きっかけは「門司港のお土産になるものをつくりたい」という思いでした。

育てたこぶみかんの葉は、門司港の飲食店やカフェで使用され、門司港ビールとのコラボにも広がっています。身近な場所から始まった挑戦が、少しずつ門司港の新しい魅力を生み出しています。

また、北九州の食の魅力について話してくださったのが門司港ビールです。

「北九州は魚が本当においしい。」

北九州は、新鮮な魚介が大きな強みだといいます。さらにビールづくりでは、本場ヨーロッパの味を追求し、ドイツのヴァイツェンをベースに、こぶみかんの葉を加えることで香りを引き立てています。

「ビールをきっかけに北九州を盛り上げたい」という言葉から、食にはまちを動かす力があることを実感しました。

Z世代の“はみだす力”



「Z世代はみだせコンテスト(はみコン)」の展示ブースでは、若者の自由な発想が形になっていました。

大賞受賞者のアイデアをもとに制作されたトレーディングカードも展示され、「思いつき」が“実現”へと変わる瞬間を見ることができました。

しかし、その裏側には地道な積み重ねがあったといいます。トレーディングカード制作にあたり、実際に店を営む大将へ協力をお願いする必要がありました。中にはすぐに承諾してもらえない方もいたそうです。それでも何度もお店に通い、想いを伝え続けました。最終的に「いいよ」と言ってもらえた瞬間は、強く心に残っているといいます。

企画に関わる栗山友良さんは、次のように語ります。

「やり始めたら、意外となんとかなる。まずは一步踏み出してほしい。」

挑戦は、特別な人だけのものではないと感じました。動きながら少しずつ形にしていくことが、新しい価値につながっていくのだと思います。Z世代の行動力と柔軟な発想は、北九州の未来をそっと動かしているように感じられました。

食もZ世代もAction

今回のイベントを通して感じたのは、食もZ世代の挑戦も、どちらも立派なActionだということです。

北九州の食の魅力に本気で向き合う人たち。そして、自分のアイデアを形にしようと動き出す若者たち。分野は違っても、「まずやってみる」という姿勢は共通しています。

食は地域を支え、Z世代は未来を動かします。その両方が、北九州を前に進める力になっていると感じました。

一歩を踏み出すということ



今回の「Action! Fes2026」で強く感じたのは、挑戦は決して遠いものではないということです。

登壇者も出展者も、最初は小さな一歩から始めています。その積み重ねが、今の活動につながっています。

北九州には、挑戦を後押しする動きが広がっています。見るだけで終わるのではなく、自分も関わる側になってみたい。そう思わせてくれるイベントでした。

未来へつながるAction

Actionは、大きな挑戦だけを指す言葉ではないのだと思います。失敗を恐れずに動くこと。地元の食を選んでみる。アイデアを思いきって形にしてみる。

そうした小さな行動の積み重ねが、まちの変化につながっていくのだと思います。

北九州で生まれる小さなActionは、誰かの「やってみようかな」という気持ちにつながっているのではないのでしょうか。